

年長組の新保育期に

(二)

新庄よしこ

把握力

受持つてゐる組の子が年長組になつて今日は四月八日、保育始めの日、うか／＼してゐれば又すぐ小學校に行くやうになります。さうなつてから、しのこしの悔なきやうき、年少組の第三保育期ごろからぼつ／＼考へて居りましたが、いろ／＼ある中で、まづ談話、觀察に關して幼児の把握力、表現力なきがさんなものであるかについて考へて見ました。今朝先生から聞いたあのおはなし、幼児はそれをその位覺えてゐるものでせうか。その程度に理解してゐるものでせうか。さつきお友達を見て來た花壇の花のいろ／＼、それがたしかに幼児のいろ／＼のこつて居るものでせうか。かう考へて見ますとき、おぼろげには頷かれることがあつても、こゝろみの結果による確信の得られないもの足りなさを感じるのでございます。つね／＼これについて考へさせられて居りました。

然し唯今迄でも、今朝きいたおはなしを、すぐ次の遊びで、子供同志適當に人物を選定して、いはゞ脚本化して遊んでゐる事は屢々見かける事であります。又、描寫の巧みな子はそれを一枚の紙に繪きして表現する場合も度々經驗して、保姆は自分のした話の、意外に効果のあつたこころを内心ひそかに喜ぶまゝ云つたこころもありませう。又ぶら／＼こ花壇をまはつて見て來た花を、木を、鳥を、同じく繪にする子もあれば、繪本なきに同じ花を見て、さつきのお花も同じまゝ子もありませう。強いてつぎめずとも、かなり印象深く子供が受取つて居るこころをよく承知してゐますが、そのまゝに、なりゆきのまゝに、それでいゝものでせうかま考へて居ります。

一、保姆の助力で把握力をもう少し強めるのではありますまいか。幼稚園は成績を主にしませんので、子供の心像にうつる程度をあらためて知る機會が、殆んど皆無き申してよいと存じます。十をきいて七の程度に、八の程度に

自ら知り得るものはさておきその子がもし、二、三位に止まる場合、幼稚園だからそれでいゝではすまない氣がいたします。これも年少組の第一、二學期はそれでもよいとして、殊に年長組にもなれば、捨てゝも置けない氣がいたします。二、三を四、五位にすることは是非つこめねばならないと思ひます。

二、發表力、把握力に富む子のみの結果を見て過信はしまいか。

精神力の強い子が組に四五人あれば、その子は先生に問はれないでも自ら表現し、さらに敷衍して迄發表するものでございます。繪などゝ違つて、はなしを聞く際は一人々々の結果を知る事が出来ませんから、一人が言へば私も知つてゝゝ模倣による發表をしますのでつい知らずゝゝに過信してしまふ事があります。

三、手技、圖畫を巧みにあらはし得る子が、言語發表は如何であるか。

無言でかくクレオン畫の發表が巧みであるのを見れば、この子の把握力はたしかなのはわかりますが、言語でいへば一向辻褃の合はないこぎがあつて、繪のうまさであつ

い成績のいゝ子と親が強信する場合もありませう。

さてかう申したきて、保育の一日中、さつきの整理々々でなくては保母も幼児もたまりません。却つて邪道にふみ入る懼れがありますので、そこが最も肝心なところでございます。それは今更こゝに申しませんが、程よいそれゝゝの方法をお考へつきになるこゝゝ存じます。

年少組の第三保育期、幼児一同とお母さん方ならびに保母みんなで一堂に會し或る集りをいたしました。この時は珍らしく種々催しありおはなしあり、つゞいて、一同會食といふので、幼児にまつてはお盆とお正月が一緒に来たようにうれしい事で、前々から毎日ゝゝ楽しんでこの日をむかへたさいふ有様。

その日の翌日、まだ昨日の楽しきなごりを見る様でしたから一人一人にきのふの事を聞いて見ようと思ひつきまして自由あそびの際に私のまごころに一人づゝよんだり又は、そばに行つたりして、

(一)昨日は幼稚園でさういふ事があつたか

(二)その順序

(二)その時見た、人形芝居のはなしのすぢこの三つを、一人のこらすにきいて見ました。

(一)は、お遊戯室でみんなのお菓子をたべた、みんなでお話をきいた、お芝居を見た位のこゝろ兎に角平常の保育を異つた意味をあらはし得ればよいと思いました。

(二)順序は、ごあいさつ、しようか、おはなし、人形芝居、食事これは、三分の一位は全部覚えてみました、これも、特に順序を主にしたのですから、食事をさきに云つた場合は保姆の方で順序を云つてやつて、思ひ出させたり、きいて見たりしました。

(三)はなしにすればそれはかなり長いすぢですが三つの場面があつて、幼児にわかり易いもので、これは思つたよりよく覚えてみました。中には話してゐる中に自分が面白くなつてもう一度始めからはなしてみる、云つた子もあつた位。この時はなしあひ的にこのはなしを保姆がくり返して見ました。

此方法がいゝおすゝめするわけではなく兎に角かうした事が無さすぎる氣がしますので試して見ましたのです。

この日の事は、

(一)非常に楽しみにしてまつてゐた事、

(二)幼児全部が保姆が同じこゝろを知つてゐること、

(三)いひあらはし易い事實

これは翌日のこゝろみですが、二三日たつてから、一週間たつてから云へば又その條件も自ら異なるのでさういふ方法でもこの目的は達せませう。

談話の場合よりさらに觀察はこれが大切と思ひます。途上所見に見るいろく、のこゝろは、はつきり何ききくわけにも行きませんが例へば、見て来た花の名を云はせて見る、繪に描かせて見る、きの道を通つて花壇迄行つた、等の事はくり返さきく事が出来ませう。

椿のむしり紙をしました。黒の色紙に貼つたもので出来たのを順々にならべて見るきいかにも美しく、そして手をつけ易いので誰もく始めました。つばききは多分知つてゐることゝ、試しにこの花何ききいたら、さくらききいふもの、うめききいふもの、知らないききいふもの、中の一人がつばきき云へば、つばききき事實みんな知つてゐないのに口まねで云つたりしますので、せめて名のみでも知らせておくべききき深く感じました。